

令和3年10月15日(金)

令和3年度保健師中央会議および健康危機における保健師活動推進会議

新型コロナウイルス感染症 対応時における人材活用

～ I H E A T ・ 保健師等広域派遣 ・ 政令市派遣～

仙台市保健所青葉支所

主幹 小林 浩子

復興10年目の仙台



経験をつなぎ、そして未来へ
防災環境都市・仙台

2011.3.12
発災翌日の沿岸部



全国から応援に
駆け付けた保健師

2020年



せんだい3.11
メモリアル交流館

かさ上げされた
東部復興道路

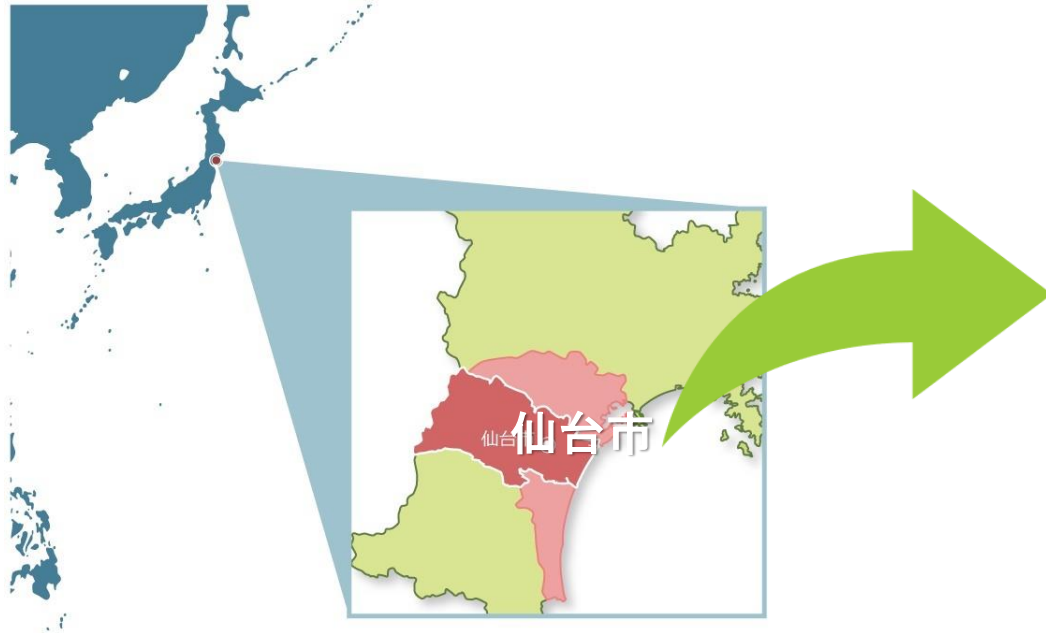
©City of Sendai

本日の事例発表内容

1. 仙台市の概要及び感染の状況
2. I H E A T ・自治体応援職員への受援体制
3. 庁内の応援体制づくり
4. 感染症対応における体制づくり

1. 仙台市の概要及び感染の状況

仙台市の概要



仙台市の概況

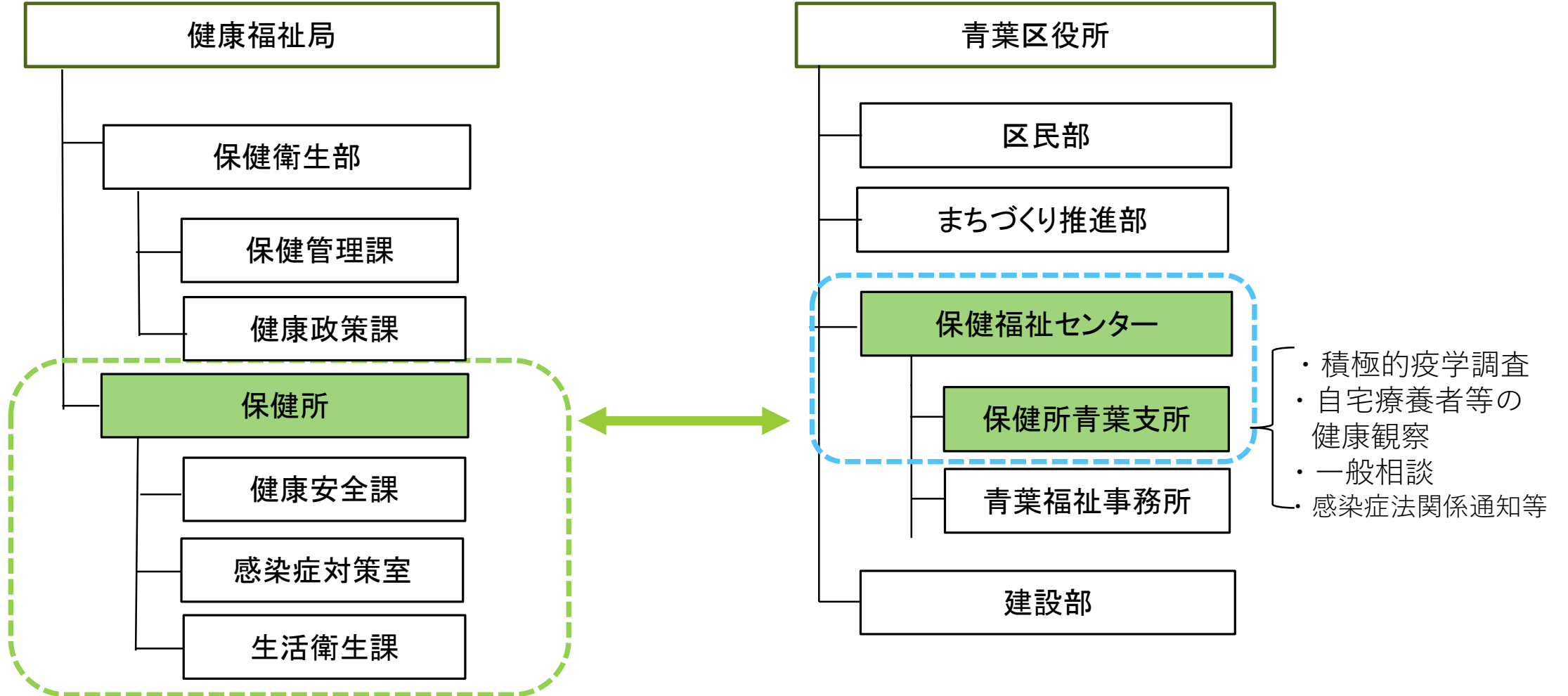
人口約109万人。周辺都市を含め150万人の仙台都市圏を形成。東北の中心都市。
高齢化率：24.4%（R3.4.1）



青葉区の概要

人口約31万人。本市最大の区。
商業・行政機能・交通結節機能などの都市機能が集積。学生や外国籍住民の居住割合が高い。
新型コロナの陽性者数は全市の約1/3

仙台市の保健所組織



仙台市の新規陽性者数の推移

図1 仙台市新規陽性者数（陽性判明日別）
（令和2年2月24日～令和3年9月26日）



※7日間移動平均：6日前から当日までの7日間の新規陽性者数の平均値

※仙台市HP:新型コロナウイルス感染症仙台市週報

全国の新規陽性者数の推移



※厚生労働省HP:新型コロナウイルス感染症について 国内の発生状況など
新規陽性者数の推移(日別)

2. I H E A T ・自治体応援職員 の 受援体制

自治体応援職員及びIHEATの派遣実績

	厚労省への応援要請による派遣（宮城県含）	政令指定都市市長会による応援	I H E A T （第4波）	I H E A T （第5波）
派遣期間	令和3年 3/17～4/30	4/4～4/23	3/17～4/29	8/5～9/11
自治体・施設数	16 県 1 政令指定都市	5政令指定都市	4大学1短期大学 1医療機関	3大学
実人員(人) <再掲：青葉区以外>	69 <4>	17 <10>	57	30
延べ人員(人) <再掲：青葉区以外>	314 <21>	115 <73>	320 <18>	157

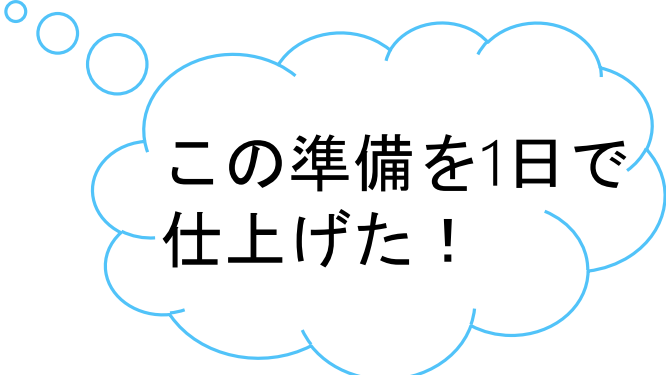
受援体制の構築

1) 外部応援者のための執務室の環境整備

執務室と休憩室の確保、電話工事・業務用パソコン（庁内LAN工事）の手配、スマホのレンタル、机、ホワイトボード、事務用品、感染予防グッズ等の調達

2) 業務用オリエンテーション資料の準備 IHEATのコアメンバーと共に

- ・ 青葉区概要・庁舎案内
- ・ 青葉支所の体制・業務分担・職員座席表
- ・ 業務マニュアルのリニューアル ⇒ その後も随時更新
（業務フロー、留意点、各種様式記載のポイント等）
- ・ マニュアル等の説明動画の作成と応援自治体への配信



この準備を1日で仕上げた！

受援体制の構築

3) I H E A T 受け入れの任用条件

雇用形態 パートタイム会計年度任用職員

業務内容 新型コロナウイルス感染症対応

勤務時間 8:30～22:00の間の3時間（超勤あり。所属長が割振る日時）

第4波は基本的に7時間を設定し、早番・遅番の2シフト

第5波は3時間でAM・PM・夕方の3シフト（2シフト連続有）

雇用期間 年度末まで

依頼手続き 学長への応援派遣依頼文・兼業届け等

依頼の事務手続きは大学ごとに異なるが、自治体幹部等からの声掛けがあるとスムーズ

この事務は第4波では後付けでの対応
本庁の保健所総括部署と
統括保健師配置部署が調整

自治体応援職員の受援

- 各自治体ごとの引継ぎと、I H E A Tリーダーによる個別オリエンテーション等によりスムーズに業務が継続。
- 自治体応援職員の感染症業務の経験や職種（看護職・獣医師・衛生職等）は様々であり、経験をもとに業務を割り振った。
- 自治体応援職員とI H E A Tが同じ環境下で業務を行ったので、事例対応等について情報共有しやすい環境づくりができた。
- 可能な範囲で、ミニミーティング等により、各自治体の状況について情報交換の時間を作り、派遣自治体に還元できるよう配慮した。

第4波におけるIHEATが果たした役割

□IHEATの人材確保

IHEAT名簿をもとに協力依頼、名簿以外の教員にも参加の呼びかけ

□自治体応援職員・IHEAT（応援者）のシフト管理

□応援者用マニュアルの作成と更新

□応援者のオリエンテーションや業務に関する

疑問にIHEATリーダーが対応⇒自己完結型

□応援業務に必要な情報の共有と見える化の工夫

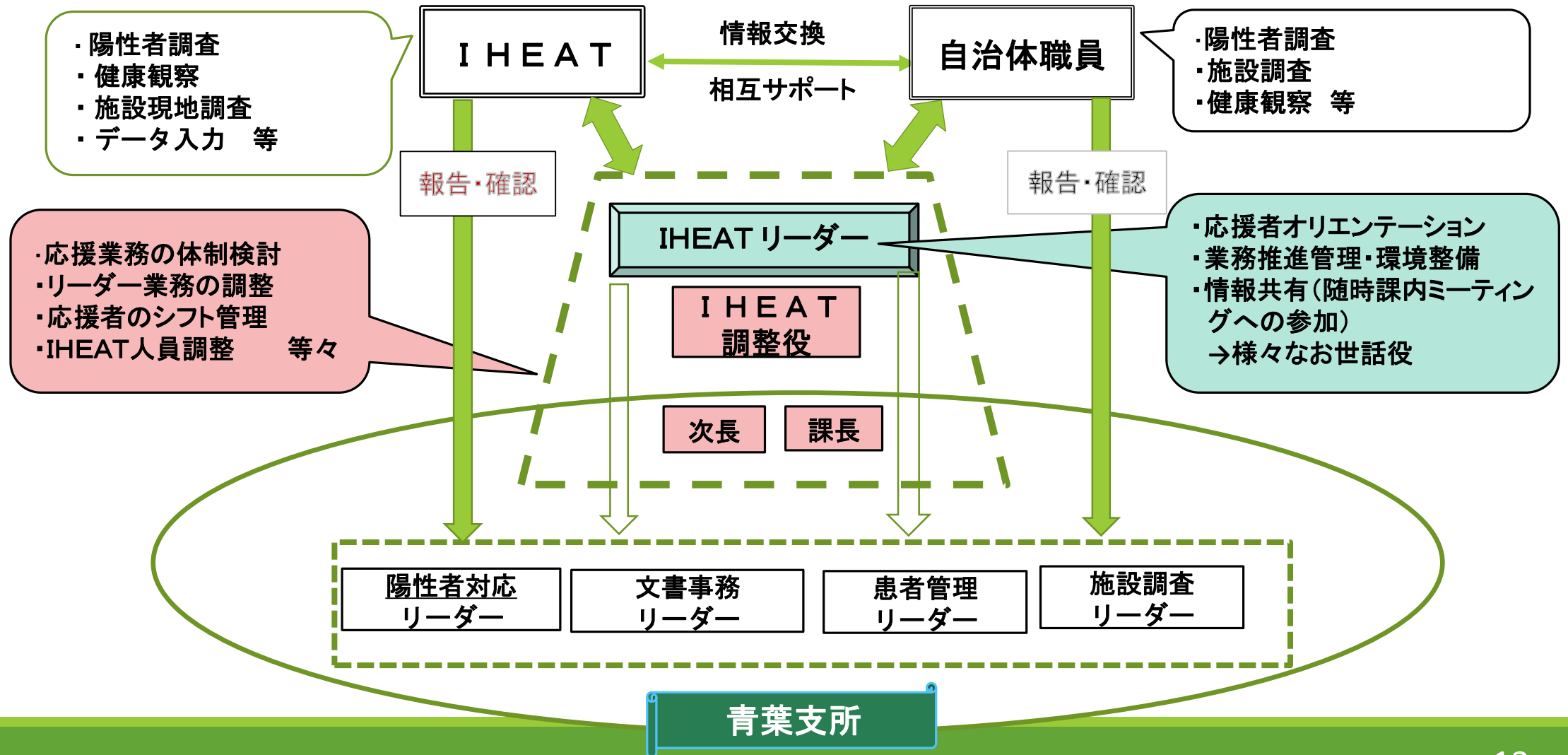
□台帳管理等の業務効率化の提言

□隙間時間には細かな業務までにも対応

積極的疫学調査に
取り組む応援者チーム



第4波における応援業務とマメネジメント



第5波におけるIHEAT応援

第4波との違い

- ・ 大学教員のスケジュール確保が時期的に困難
 - ⇒シフトの細分化（3シフト体制）
 - ⇒大学院生の協力を強化
- ・ I H E A Tリーダー不在での対応
 - ⇒業務マニュアルの活用により、個別オリエンテーションを簡略化
 - ⇒ I H E A T業務の絞り込み（陽性者調査中心）
 - ⇒ I H E A Tのシフト管理は青葉支所が対応

第4波で準備した受援体制整備を活用し、受援の負担を軽減

IHEATと連携するために・・・

- 平常時から地元大学教員との顔の見える関係・ネットワークづくり
(実習受け入れ、審議会等の委員就任、保健福祉事業の助言、研修依頼等)
- 業務応援を相談できる教員を確保する。感染拡大の前に関係者の根回しや人材確保のための戦略を立てる。
- 大学の繁忙期と感染拡大の時期が重なり人材確保が困難な場合も想定する。
⇒教員の隙間時間を活用する工夫や、幅広く看護系教員や大学院生に広げる

3. 庁内の応援体制づくり

庁内応援体制づくりで留意したこと

- マンパワー不足の中では、専門職担当の業務を絞り込み、事務職等が対応できる業務を切り分け、専門職以外の人材の活用と業務マネジメントが重要
- 課ごとに応援業務を決め、感染レベルに応じた応援職員必要数を明示する。
- マニュアルの活用や研修会の実施、応援課内の引継ぎにより、受援側の負担を軽減する。
- 窓口業務メインの区役所では、継続的な応援体制には限界があり、日替りでも対応できるようにする。
- 感染者数等の動向や応援シフト表を応援課の課長と情報共有し、応援の必要性の周知を図る。
- 組織トップと対応状況や応援体制をタイムリーに情報提供を図る。

区役所内応援体制の役割分担

※赤字は保健師・衛生職の専門職配属課

チーム名	主な業務内容	応援課	応援業務
陽性者対応	発生届受理、陽性者聞き取り調査及び濃厚接触者の決定（1回目調査・2回目調査）、接触者へ検査案内の連絡、検査結果連絡 一般電話相談	家庭健康課・障害高齢課・保育給付課・保護第一課・保護第二課 宮城総合支所各課	全部
患者管理	自宅療養者の健康観察と療養解除連絡、外来受診・入院・ホテル入所の連絡 陽性者台帳等の入力・管理	区民部・まちづくり推進部・家庭健康課・障害高齢課・宮城総合支所	健康観察、データ入力
施設調査	陽性者が関係する施設内で接触者調査及び濃厚接触者の決定、クラスター対策、社会福祉施設・事業所等への感染対策指導	区民部・まちづくり推進部・衛生課・建設部・生活衛生課（本庁）・食品監視センター（本庁）	施設調査
文書作成	就業制限・入院勧告・解除通知などの文書作成と発送 医療費公費負担の審査・通知 PCR検査受診調整者のPDF化と受診調整班への連絡 PCR検査結果受理	介護保険課 保険年金課	文書 チェック データ入力

庁内応援職員数の調整

感染レベルに応じた庁内の人員確保の想定が、受援開始の判断に役立つ

青葉区役所応援職員体制

	課名	専門職	レベルⅠ				レベルⅡ				レベルⅢ（通常最大値）				レベルⅣ（緊急最大値）				依頼業務（レベルⅠの場合） （レベルⅡ・Ⅲでは業務内容再編）	
			陽性者		10名～		陽性者		25名～		陽性者		40名～		陽性者		80名～			
			自宅療養者等		50名～		自宅療養者等		100名～		自宅療養者等		150名～		自宅療養者等		200名～			
従事時間帯			①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④		
保健福祉センター	家庭健康課	看護職	0.6※				0.6	1			1	2			1	3			2	陽性者対応（疫学調査1回目・2回目） →自宅待機者健康観察 夜当番④ ※専門職：栄養士、歯科衛生士等
		専門職																		
	保育給付課					1				3					5				陽性者対応（疫学調査2回目） →受診調整の聞き取り、陰性結果告知	
	障害高齢課	看護職	※				1			1	2			1	3				2	陽性者対応（疫学調査1回目）
									0.5		1		1		3					陽性者対応（疫学調査2回目） →自宅待機者健康観察
	介護保険課					0.5				1				1					事務処理	
	保護第一課				1		1		1		1		3		2		5		陽性者対応（疫学調査2回目） →受診調整の聞き取り、陰性結果告知	
	保護第二課				1		1		2		1		2		2		4			
保険年金課		0.5				1				1				1					兼任1名専従済。その他の応援人員を計上 事務処理・患者管理	
衛生課	衛生職		1											4					施設調査	

以下省略

4. 感染症対応における体制づくり

コロナ対応の体制づくりを通して感じたこと

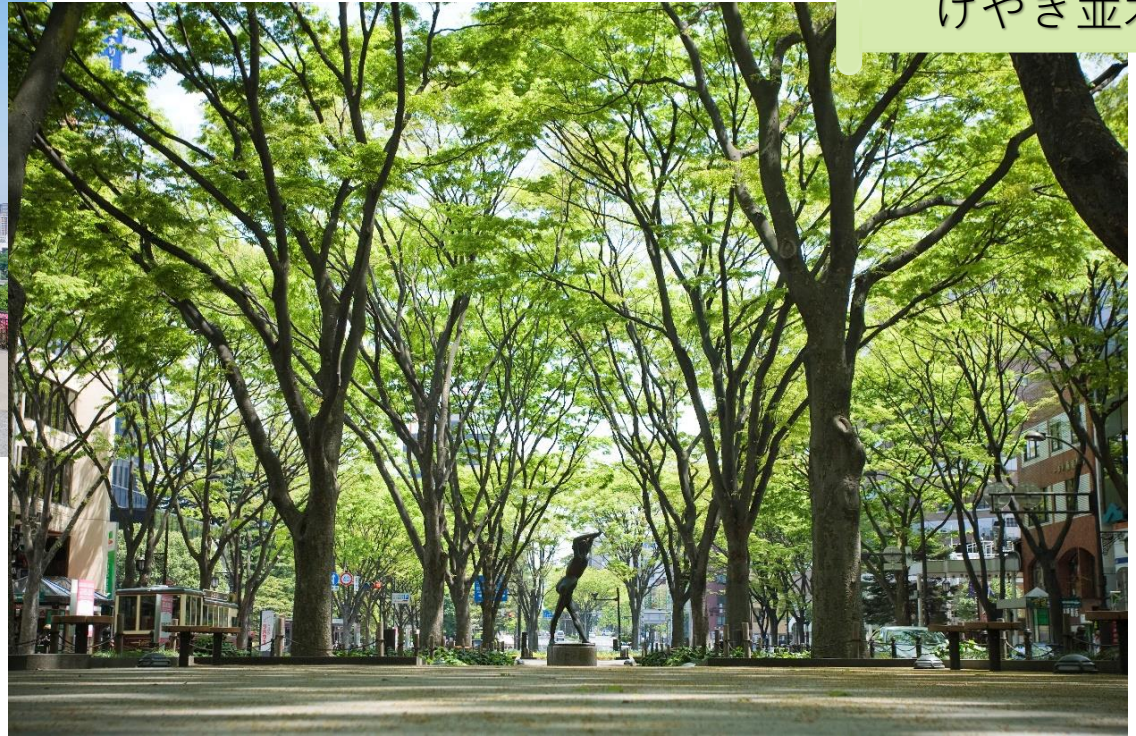
- 感染の波が繰り返されるその谷間に、PDCAサイクルで業務の効率化や応援体制を見直し、次の波に備える。
- 応援者からの意見を組み入れながら業務体制・対応をバージョンアップさせる。様々な応援者が必要になることを想定して準備をする。
- 受援体制は災害時の受援のイメージと同じだが、感染症対応では感染状況によって業務内容・手順の変更が起きるため、その都度応援者へ周知を図る。
- 応援者が取り組みやすいよう、応援者に任せると割り切る意識が重要
- 波の収束が見えない、ピークがどこなのか掴めない中で、業務に追われる職員のモチベーション維持には「段階的な応援体制の見える化」が必要

保健所組織内外の多様な応援を柔軟に受け入れるマネジメントが重要



青葉城跡の
伊達政宗像

定禅寺通の
けやき並木



ご清聴ありがとうございました。